



ひととひととを
むすぶ情報紙

みやぎNPOプラザ情報

2013 SEPTEMBER

Vol.75

One to One

10年の歴史に幕 みやぎNPO夢ファンドを終えて

平成16年に設置されて以降、宮城県のNPOを対象とした助成プログラム「みやぎNPO夢ファンド」(以下、夢ファンド)が、7月20日に行われた公開コンペをもって終了しました。この間、多くのNPOの組織運営や新規事業の立ち上げを支えてきました。この夢ファンドの終了にあたり、運用委員会委員長と、夢ファンドを協働して設置・運営してきたNPO法人せんだい・みやぎNPOセンターと宮城県がこれまでの振り返ります。



平成25年度みやぎNPO夢ファンドの審査を振り返って

運用委員会委員長 高浦康有

本年度の組織開発、スタートアップ支援プログラムも、女性や障がい者の社会参加、アートやスポーツを通した子どもの健全育成、まちづくりなど多様な分野のNPOから応募がありました。その特色はやはり、東日本大震災の影響です。震災後、草の根的に始められた子どもたちを支援する取り組み、地域の復興に向けた観光拠点づくりなど、いずれも支援の必要性の高いNPOの事業提案でした。被災地の支援活動が2年経ち、踊り場を迎えるにつれて、人材難や資金不足などNPO特有の課題が顕在化し、支援団体間のネットワークづくりや広報活動の強化に迫られていることが一方で伺えます。県内のNPO活動への市民の関心をあらためて喚起する上で当ファンドが多少とも貢献できればと願っています。

さて審査を振り返れば、事業の新規性に注目しながらも、ある程度の活動実績があり、その着実な発展が望めるようなところが主として選ばれた傾向があります。そうした団体は事業計画や予算設定もあまり無理がなく、主旨説明も説得力が感じられました。ただし苦言を呈するならば、成果目標があいまいな

書き方をされる場合が多く、イベント参加者数〇〇人、スタッフ数〇〇人増加、WEB更新回数〇〇回(一月)など具体的な数値を示したり、どのような問題を解決できるかなどを詳述したりする工夫があれば尚良かったと思います。助成が決まった団体には、資金を投じることの成果を絶えず意識するような取り組みを期待します。

なお当ファンドは今年度をもって10年続いたその使命を終えますが、宮城県の市民活動・NPO活動を長く下支えしてきた意義は特筆されてよいでしょう。環境保全や高齢者福祉など震災前から多様なNPOの活動の素地を作り、震災後、被災者支援を中心としたNPOの活動基盤を生み出してきました。始動期から飛躍期まで長くNPOの成長を見守り続け、後押ししてきた当ファンドの価値は関係者の心から忘れ去られることはないでしょう。最後に、本ファンド事業の円滑な運営にご協力、ご尽力いただいた審査委員のみなさんをはじめ、宮城県環境生活部共同参画社会推進課、事務局のせんだい・みやぎNPOセンターの職員の方々ほか関係各位に深く感謝の意を表します。

NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター事務局長 伊藤浩子

夢ファンドは宮城県からの拠出金と市民・企業などからの寄付金を原資としたNPO向けの助成プログラムです。この市民活動団体を支援する全国でも画期的なこのファンドは10年目を迎え、今年度をもって最後の助成となりました。

NPOの立ち上げ支援、組織課題解決、事業のステップアップを継続支援するプログラムは、宮城で地域課題を解決する団体が成長するための大きな役割を果たすものとなりました。今年度末には、10年間このファンドが果たした役割をみなさまへお伝えする報告会を予定しています。ぜひ地域を支える団体の成果を見に来ていただきたいと思います。

宮城県環境生活部共同参画社会推進課長 佐藤謙一

夢ファンドによる助成事業も、ついに終了の時期となりました。10年間で、延べ119団体、総額約4,800万円の助成を行うことができました。関係の皆様の10年間の御努力に深く感謝申し上げます。

この10年間で、県内のNPO法人数は、242から、約3倍の709となりました。県民の間に、NPOという存在はしっかりと定着しつつあることを感じています。

県のNPO行政も黎明期を終え、今後は新たな段階に入っていくものと思っています。変わらぬ御協力を賜れば幸いです。

つどう!NPO支援の希望の星

～東北NPO支援センター初任者研修開催

6月24・25日
開催

みやぎNPOプラザでは、年3回宮城県内を中心に、NPO支援センタースタッフ向けの研修を開催しています。去る6月24・25日、東北自治総合研修センターを会場に、NPO法人杜の伝言板ゆるるとの共催で、宮城県のみならず、東北六県のNPO支援センターの新人スタッフを対象に宿泊研修を行いました。参加者は、宮城県11名、秋田県7名、岩手県5名、山形県3名、福島県1名の総勢27名で、着任して3カ月から5年目までのスタッフが共に、『NPO支援に求められる事』について、2日間みっちり学びました。

まずは基本のふりかえり

1日目は「NPOの基礎」をテーマに3つのプログラムを受講しました。始めに、NPO法人杜の伝言板ゆるるとの大久保朝江代表理事より、NPOの基礎について講義がありました。NPOの社会的意義は何か、NPO法人になるための要件や申請手続き、NPOの運営などを学びました。

続いて、NPO支援センターの役割についての講義では、NPOの活動を継続していくためのNPOにとって有益な研修会や講座など人材を育成する役割を担うほか、専門性のある相談などの窓口になる必要があること。また、すべてのスタッフが専門性や資格を持っていなくても、日頃から相談者が求める情報をつなぐ先の機関や団体をどれだけ知っておくかが重要であるとのアドバイスもありました。

参加者のアンケートからは「改めてNPOが何であるか、それに対して、我々NPO支援センターは、何をしていたらいいのかなど、普段、なかなか聞けないことを聞くことが出来て良かった」と好評でした。

初日の最後は、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター事務局次長の小川真美さんから、普段聞く機会の少ない「NPOで働くこと」についての講義がありました。労働時間や給与に



ついて、企業と比較して、NPOで働くということの現状を知り、その後、参加者各々がNPOで働く上での心構えなどを発表しました。「NPOで働くにあたって、市民に対して何が出来るのかという意識を持ちながら働いている」などの意見があり、参加者は改めて自分の働き方を振り返るきっかけとなりました。

その日の夜は交流会が行われ、普段なかなか顔を合わせるこ

とのない、他地域の活動状況や今後の展望について深夜まで語り合いました。

NPO支援における情報発信のあり方とは

2日目は「NPOの情報発信」をテーマに2つの講義が行われました。始めにNPO法人あおもりNPOサポートセンター事務局長の三澤章さんから、「写真の効果的な撮り方について、何のために写真を撮るのかという目的を持ちながら一枚一枚シャッターを切ることを心がけることで印象に残る写真が撮ることが出来る」というお話がありました。また、「なぜ支援センターがこの事業や講座を実施するのかを考え、明確な目的を持つことが今後、実施していく上での指針になっていく」と話しました。

その後、具体的な広報のスケジュールリングの方法、人目を引くチラシの作成方法などを学び、参加者からは、「今、取り組んでいる事業へ早速実践したい」との前向きな意見が聞かれました。



続いてNPO法人せんだい・みやぎNPOセンター代表理事の紅邑晶子さんの講義の中では、自身の団体の目的、活動内容を参加者同士が伝え合うワークを行いました。このワークによって、スタッフ一人一人が自分の組織やNPOのことを伝えるメッセンジャーであることを意識することができました。

NPO支援センターの果たすべき情報発信の役割とは、NPOセクターについての社会的な理解を広げること、他セクターとのつながりをつくること、一般市民のNPOへの参加を促進すること、資金的な支援の機会をつくること、そして、社会への提案ができることであり、その役割を担うには、どのセクターの人々も分かりやすく説明できるような『翻訳力が必要』だということを学びました。

NPO支援センターは、地域のNPOを、縁の下から支える“黒子”の役割を担っています。それぞれのNPOがそれぞれのミッション達成のために、継続的に組織運営をしていけるよう、サポートしていくことが求められています。

今回は、経験値の近い者同士が『NPO支援』の在り方や存在意義について、一度立ち止まって考え、気持ちを新たにすると貴重な機会になりました。今後の東北の『NPO支援』の動きにご注目ください。

とめ市民活動プラザの取り組み NPOをもっと身近に! 「体験!NPOバスツアー」開催!

NPOの活動を現場で体験

とめ市民活動プラザでは、初めての一般市民参加型の自主企画事業「体験!NPOバスツアー」を8月3日(土)に実施しました。とめ市民活動プラザ(以下とめプラザ)は、今年4月「特定非営利活動法人とめ市民活動フォーラム」が登米市からの業務委託を受け運営しているNPO支援センターです。

今回は、11時にとめプラザに集合し、その後、迫町にあるとめ女性支援センターと、南方町の特定非営利活動法人どんぐりの家の2カ所を訪問しました。

参加者は、男女20代~70代までの幅広い年齢層16名。初めてとめプラザを利用する方々からの申し込みが大半を占めたことから、とめプラザの活動紹介や、NPOとは何かという概要説明から始めました。また、一人一人が、ニックネームで自己紹介をする時間を設けるなど、交流の時間を大切にしながら、和やかな雰囲気の中でバスツアーをスタートしました。

まず向かったのが、とめ女性支援センター。こちらのセンターは、主に、登米市に暮らす女性(シングルマザーや子育て中の母親、震災後、登米市に移住した女性など)の自立支援をしています。センターに併設するカフェで昼食を楽しんだ後、現在の運営主体である特定非営利活動法人とめタウンネット副理事長である西城順子さんから話を聞きました。その後、高齢者のデイサービス・障害者の日中一時支援を行っている特定非営利活動法人どんぐりの家を訪問し、理事長の石川志穂子さんから、団体立ち上げから現在の活動に至るまでの話を聞きました。

登米市ならではの市民活動支援を目指して

この二人の女性から、それぞれ、NPO法人設立の経緯や、

一人で始めた活動がどのように広がったり繋がりを生んでいったのかなどを聞き、参加者は熱心にメモを取りながら聞き入っていました。また、スライドの映像などで活動の具体的な様子を目の当たりにし、涙あり笑いありの凝縮した時間を共有したことで、一人一人が何かを感じ、NPOに対する関心を深めている様子でした。

終了後、参加者からは「身近にこんな活動をしている方がいたのに驚きました!」「今までNPOが何かよくわからなかったけれど、とても素晴らしい取り組みをしているんですね!」などの驚きの声や、「登米市の素晴らしいところを見せていただき、ありがとうございます」「また参加してみたいから、がんばって!」などの感想が聞かれ、たいへん好評でした。

NPOに馴染みのなかった一般市民の参加が多くあり、学び合い、交流の場を作ることができました。登米市の実態に即した市民活動支援の在り方を考えながら、座学だけではない企画を継続的に実施できるよう、また、とめプラザをより多くの方に知ってもらい、活用してもらえるような企画・運営に尽力していきたいと思っています。



(文責:とめ市民活動プラザスタッフ 工藤美保)

知って、つながる! みやぎNPOフォーラム 2013 開催

日時:11月16日(土) 10:00~16:00(予定)

会場:みやぎNPOプラザ(仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地)

みやぎのNPOがさらに元気になり、市民のみなさんがNPOをもっと身近に感じられる社会を目指し、今年もNPOフォーラムを開催します。「NPOってどんなことをしているの?」という方から、長年NPO活動に取り組んでいる方まで、誰でも気軽に参加できるプログラムが満載です。

プログラム(予定)

- ◎団体の魅力を伝える
プレゼンでの話し方セミナー(10:00~12:00)
- ◎パネルディスカッション
「みやぎのNPO次世代リーダーに聞く!」(13:00~15:00)
- ◎NPOによる販売コーナー(ショップスペース)
- ◎みやぎのNPOひろば(各会議室)
- ◎交流会(交流サロン)

ほか現在企画中!

プログラムは、みやぎNPO情報ネットで随時紹介します ▶ <http://www.miyagi-npo.gr.jp/>

みやぎNPOプラザ information

9~10月

●申込:講座・専門相談は要予約。所属団体・参加者氏名・連絡先・電話・FAX番号・質問事項をご記入のうえ、FAX・メール・電話にてお申込み下さい
●主催:宮城県(みやぎNPOプラザ) ●企画・実施:特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

NPOマネジメント講座

NPO夜学 ~もうひとつの生き方と出会う~

NPO夜学は、毎月違うメニューで開催する、仕事や趣味だけじゃない、“新しい価値観との出会いの場”です。10月は「NPOとボランティア」をテーマに、NPO・市民活動について基本的なことを学びます。

- 日 時:10月16日(水) 19:00~21:00
- 講 師:大久保朝江(みやぎNPOプラザ館長)
- 対 象:20~40代の社会人・学生で、市民活動に関心のある方など
- 定 員:15名程度(申込先着順) ●参加費:各回1,000円

NPOのための融資セミナー(仮)

「NPOって融資は受けられるの?」とお考えの方、NPOだからといって、融資を受けられないということはありません。NPOへの融資実績を数多く持つ、日本政策金融公庫の方を講師にお招きし、融資の仕組みから事業計画の立て方までを学びます。

- 日 時:10月25日(金) 14:00~16:00(予定)
- 講 師:日本政策金融公庫
- 対 象:NPOや市民活動団体のメンバー・スタッフなど
- 定 員:20名(申込先着順) ●参加費:800円

活動が伝わる印刷物デザイン講座(出前講座)

NPOの活動の目的やさまざまな事業を紹介するためのパンフレットやチラシ。このツールを多くの人に手に取ってもらえるよう、グラフィックデザイナーからデザインのポイントを学びます。

- 日 時:10月30日(水) 14:00~16:00
- 場 所:亘理町中央公民館視聴覚室
- 講 師:真山正太さん(一般社団法人メディアデザイン理事)
- 対 象:NPOや市民活動団体、ボランティア活動団体のメンバーなど
- 定 員:20名(申込先着順) ●参加費:500円

NPOのための会計・税務講座

正しく理解!お金の管理のしくみ

団体のお金の管理について、お悩みはありませんか?お金に関するトラブルはNPO法人全体の信用を損ないかねません。ミスや不正を防ぐための仕組みづくりについて学び、信頼される団体を目指しましょう!

- 日 時:9月18日(水) 13:30~16:30
- 講 師:成田由加里さん(公認会計士、税理士)
- 対 象:NPO・市民活動団体の代表、会計担当者など
- 定 員:20名(申込先着順)
- 参加費:1,000円(税込)

NPOのための専門相談

■会計・税務相談 →9/27(金)、10/24(木)

日々の会計業務から決算書作成や税金のことなど、NPO会計に詳しい税理士が、ご相談をお受けします。

- ◎相談対応:【9/27】平野由紀子さん(税理士)
- 【10/24】笹館公男さん(税理士)

■経営相談→10/17(木)

事業計画を見直したい、何から手をつけていいかわからない…そんな時は外からの視点を取り入れてみませんか?

- ◎相談対応:近江美保さん(株式会社クリア代表取締役)

■法人設立・団体運営相談 → 毎週水曜日

NPOの設立や法人申請書類の書き方、NPOが活動の中でぶつかる様々な問題について、乗り越えるためのアドバイスをいたします。

- ◎相談対応:大久保朝江(みやぎNPOプラザ館長)

- 時 間:13:00~17:00(相談時間:1団体1時間程度(定員3団体))
- 申込方法:所属団体・参加者氏名・電話・FAX番号・質問事項をご記入のうえ、下記連絡先までお申し込み下さい。
- 申込締切:開催日の6日前

■新規のNPO法人認証団体 (2013.6.11~2013.8.10)

	団 体 名	所在地	活 動 内 容	認証日
宮 城 県	そのつ森	伊具郡丸森町	高齢者福祉事業や宿泊・交流事業等を通じて地域での活性化を図る	6/14
	あいのはな	柴田郡大河原町	単独型短期入所事業及び放課後等児童デイサービス事業を通じて障害者等の支援を行う	6/14
	お茶っこケア	石巻市	地域住民への通所介護事業・障害福祉サービス事業や子育て支援事業等	6/14
	なりわい舎	東松島市	障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業等	6/14
	ピースネイチャーラボ	気仙沼市	就労機会の安定創出、共感型継続的購入(フェアトレード)を推進し、地域発展及び国際協力に資する事業	6/25
	女川ネイチャーガイド協会	牡鹿郡女川町	女川町の森林を保全し、観光資源として活用していく活動	7/17

宮城県のNPO法人数 736団体 (平成25年8月10日現在)

宮城県等所轄338団体 仙台市所轄398団体
※解散、所轄庁変更、認証取消、認証撤回した団体を除く

	団 体 名	所在地	活 動 内 容	認証日
宮 城 県 等	FMあおぞら	亘理郡亘理町	FM放送などのコミュニティメディアを活用し、地域の活力増進とコミュニティの活性化を図る活動	7/25
	夢未来南三陸	本吉郡南三陸町	地域住民への通所介護事業・障害福祉サービス事業や子育て支援事業等	7/26
仙 台 市	被災支援ネットワーク・東北ヘルプ	青葉区	福島原発事故による放射能被害に対する支援事業、津波により被災した人々に対する自立等支援事業、広報・啓発事業	6/17
	福寿	若林区	高齢者、障害者に対する共同住宅の提供及び生活支援を行う事業、福祉、介護に関する調査、研究、相談及び啓発に関する事業等	7/22
	宮城県車いすダンス協会	泉区	車いすダンス指導員の養成事業、車いすダンスに関する講演会、講習会の企画運営事業、車いすダンススポーツ競技会の企画運営事業等	7/23

One
to
One

発 行 日:2013年9月1日
発 行:宮城県民間非営利活動プラザ(みやぎNPOプラザ)
発行部数:3,000部
編 集:特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる
編集スタッフ:庄司真希 清野利之

【お問い合わせ】
〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榎ヶ岡5
TEL:022-256-0505 FAX:022-256-0533
E-mail:npo@miyagi-npo.gr.jp
URL:http://www.miyagi-npo.gr.jp

2013 SEPTEMBER
vol.75

「One to One」は、県内各地でのさまざまなNPO活動により、ひととひとが信頼でつながって、よりよい市民社会が形成されるよう願いを込めたニューズレターです。